

新聞記者の仕事について、初めて話を聞いて、私たちに情報が届くまでに想像以上の苦勞をされている事を知った。特に印象に残ったのは紙の新聞からデジタルに変わることにより、情報の発信の仕方や届き方も変わっている事だ。また、より速く、便利にニュースを読めるようになった背景に、昔と変わらずに記者が直接人から情報を聞き出していることがあるという事にも驚いた。携帯電話ですぐにニュースが読める世の中で、紙の新聞にある魅力を感じたので、これから意識して紙の新聞を読んでみようと思った。

まず、新聞社の記者さんの話を聞く機会が貴重でした。僕自身、中1頃までは毎日朝に新聞を読む習慣がありました。ですが中2頃からスマホでニュースや情報を手に入るようになり、手に触れないものになりました。今日話を聞いて、新聞の作り方、手元に来るまでのリアルが分かりました。人の話や起こった事象・事件を上手く構成し、写真と文字で伝える“新聞”の魅力を再発見しました。新聞離れが増える中、僕も新聞離れをしてしまった一人だったので、明日から見出しと興味のある欄を読んで、情報を入れ、社会を知る時間を毎日とるようにしたいと思います。今日聞いた事を意識して読んでいきたいです。

私はメディア部で、学校の新聞の記事を書くことがあるので、今日新聞記者さんの仕事を知って、少し驚きました。学校新聞を書くときは、行事など最初から書く内容を決めているけど、実際は急に事件が起きたり、締切直前に記事を書かないといけないなど、想像以上に大変な仕事だと思いました。また、毎日発行する事や、その日あったことでどの記事を一面に載せるかなど、学校新聞を書く時とは全く違った大変さがあるのだなと思いました。これから新聞を読むときは、今日聞いた話を意識しながら、新聞のレイアウトや内容などにも注目して読んでみようと思いました。

今日の講演会を聞いて、新鮮な記事を読めることは記者の方々をはじめ多くの人々の努力や労力のおかげだと知り、改めてありがたいことだと思いました。身の回りに起こったことだけでなく、日本各地の出来事、さらに世界の出来事を毎日知ることや、それらに興味や自分の考えを持つことは、社会の一員としてとても大切なことだと思います。特に新聞は、自分の興味のあることについて詳しく継続的に調べたり、スクラップして保管したりできるので、これからも大いに活用したいと思います。新鮮な記事を楽しみにしています。

時代の変化とともに、新聞のあり方も変わっていることが分かった。インターネットの普及により、紙媒体だけでなくインターネット媒体に記事を書けることができ、テレビに劣っていた速報性という部分をカバーできるようになった。また、新聞がテレビより優れていた保存性、記録性なども向上したのではないかと思う。過去と現在の記事を少ない労力で見比べることができるようになったのではないかとも思った。消費者の需要に対応し、進化し続けていることも分かった。

一方で、取材の手法などは昔ながらの部分が残っていることもわかった。

今日の講演で初めて新聞発行の仕事を知りました。今までは、「情報収集→記事作成→誤字の確認→発行」のみであると思っていました。しかし、情報収集するにも、ただ人から話を聞くだけでなく、朝から張り込んで相手が出てくるのを待つ「朝駆け」や、夜に帰ってくるのを待つ「夜討ち」というものがあり、そうまでして情報発信しようとするその姿勢は、仕事だからというだけではなく、その記者の信念であるということがわかりました。また、僕たちが毎日見ている新聞やニュースなどの情報は、情報収集されたものを見やすく、読みやすく、わかりやすくしてくれているということも忘れてはいけなかったと思います。

新聞記者の方の仕事について話を聞くという機会がこれまでなかったので、今回の講演を聞くことができてよかった。これまでは、記者の行き過ぎた報道、相手のプライベートを無視したかのような張り込み、印象操作などに対してよくないと思ったことが何度かあった。しかし、今回の話を聞いて、記者の方の「新鮮なニュースを速く届けたい」という思いをよく理解することができた。相手に怒られても、何度も何度も通いつめる記者の方の身体的、精神的な強さは半端ではないと感じた。私は、小中学生の頃は新聞に毎日目を通していたが、高校生になって、あまり読まなくなっていた。今日の講演を機に、また読むようにしたいと思う。

新聞社の仕組みや仕事の内容など知らなかった事を知ることができた。速報性の観点から観るとインターネットの記事が速いので、基本的にインターネットから情報を手に入れているが、正確性の事について考慮するとインターネットに頼りすぎることは良くないと思うので、新聞はこれからも必要とされていくと思う。そして他の新聞社が取り上げていないネタを探すために、様々な方法で頑張っていることが分かった。

新聞はとても細かく毎日書かれていてすごいなと思っていたけれど、それは新聞記者の努力あつての事だったのだと改めて思いました。夜回りや朝がけは本当に大変な仕事だと思いました。しかもそれを自主的に行っているというのを聞いて、本当に速く私たちに伝えてくれようとしている事を感じました。また、新聞が地域によって内容が異なるというのも驚きました。そして締切時間はとても遅く、その時間まで情報収集をし、新聞を書き換えていると思うと尊敬しかありません。最近では新聞を読む機会が少なくなっていたので、これを機に再度読んでみようと思いました。

今回初めて新聞の裏側の話を詳しく聞いて、とても興味を持ちました。特に印象に残ったのは朝駆け夜討ちの話です。記者の方々は今もそんなことをしている事にびっくりしました。公務員が守らなければいけないルールに立ち向い、読者に新しい情報を与えるという姿勢が素晴らしいと思いました。新聞ができるまでに色々な部の方々が関わっていることを知り、もっと新聞に関心を持つようになりました。締切時間ぎりぎりに新しい、載せるべきニュースがあるときの、現場の様子がとても気になります。話を聞いて、情報を得るためにだけでなく、沢山の人が関わっているなど、他の事にも目を向けて読みたいと思います。

今回この講演会を聞いて、新聞について沢山学ぶことができました。新聞がどのように作られているのかが分かり、沢山の人が関わってようやく一つの新聞になる仕組みがすごいと思いました。新聞記者の方々の無駄かもしれない努力も、大きなスクープになるかもしれない期待と、読者にそのニュースの事実を伝える、という使命感からだというのを聞いて、新聞記者という仕事への強い情熱を感じました。たくさんのお話を聞いて新聞に対しての印象も変わったし、読んでいきたいと思いました。

日頃、何も思わずポストから出している新聞に、そのようなくつもの部署の何千人もの人々が膨大な時間を割き、作り上げているのだと初めて知った。早朝、深夜に張りこみ、やっと見つけて出した情報をいざ紙に起こしどれだけの量になるのかと想像すると、多大な努力が重なっているのだと思う。それを毎日続けて同じ量を出しているのはすごいと思った。デジタル新聞を使っている身としてはシンプルで手軽に扱える便利なものとして認識していたが、新聞を刷っている背景を知ると、新聞紙で情報を取り入れるのも良いと思った。

情報が重要になっている今の社会で、新聞社で働いている人が思いの外少なくて意外でした。やはり昔より新聞への興味や需要がなくなっているのかなと思いました。私はデジタルより紙の新聞が好きですが、ネットに気軽に見るのも便利で良いと思いました。記事を作るには大変な苦労があることが分かりました。インタビューも話を聞くだけでなく、自分の足で向かう大変さを知りました。

私はメディア系の仕事への就職を考えているので、実際に現場で働く人から話が聞けて良かった。
人が生きていくのに必要な情報を素早く効率的に伝える仕事に大変魅力を感じた。現在、デジタルニュースが主流になりつつあるが、形として後世へつたえることができる紙の新聞は必ず必要なものだと思う。

今回の講演会を聞き、情報を伝える事の難しさを知ることができました。情報を伝えるという事は、伝える側の大きな負担により成り立っており、難しいことだと思います。また、現在は情報を誰でも発信できる世の中であるが故に何が本当に正しい情報なのかが分かりにくくなっています。私たち情報を受け取る側も、何が正しい情報なのか判断するメディアリテラシーを養うことが、情報伝達の上で大切なことではないかと思いました。

それぞれのテーマの記事をどこに載せるのかということは全て決められていると思っていたのだが、整理部という部が決めていているということを知って驚いた。

新聞記者のイメージは、一日中取材のためにいろいろな場所を歩き回り、残業をして記事を書いているというようなものだったが、今はホワイト化してきていて、たくさん休みがあるということを知り、イメージが変わった。

しかし、今でも夜討ち朝駆けなどがあり、やりがいがあるとしても、決して楽ではなく根気のいる仕事だ。

今までは新聞の政治面とスポーツ面だけを読むことが多かったが、新たな発見を求めて、それ以外も読んでみようと思う。

新聞は普段何気なく家に置いてあり、今まで特別な興味を持ったことはありませんでした。しかし今回の講演会で、1つの新聞に何人もの人が関わり、熱意を持って作成されていることを知りました。特に、特ダネについてのお話は、他の新聞社に負けないための真剣な思いがすごく伝わってきました。今回の講演で自分の将来の視野を広げることができた気がします。

今日の講演で、新聞記者の方が、ただニュースを書くだけではなく、張り込みなどもして、よりリアルな話を提供してくださっているのだと感じました。

最近、若者のスマートフォンによるデジタル化が進む中、このような講演を通して、改めて新聞の良さに気づけたような気がする。これを機に、家の新聞をしっかりと読んでみようと思いました。

新聞作成については、現場に行き、取材をし、記事にするという基本的なことは知っていましたが、社会部、経済部、写真部など想像以上にたくさんの部に分かれていることは知らなかったもので、驚きました。

また、一つの面を作るのに多くの人の知恵や工夫がされていること、多くの会議が行われていることも初めて知りました。家に毎朝当たり前にある新聞ですが、全てが完成するまでに多くの労力が必要であることを知りました。

これを機に今までよりもしっかりと新聞を読みたいと思います。デジタルでも読めるので楽しみです。

これから将来の仕事などを考える機会もあるので、役立てていきたいです。

インターネットの普及により、新聞を読むという意識が低下している中、この講演を聞いて、改めて新聞に対する認識が変わりました。まず初めに驚いたのが、新聞記者が深夜まで仕事をしているということです。午前1時半までに記事を仕上げなければならず、また、締め切り間際に大きな事故や事件が起こったときは、迅速に行動し、社内で罵声が飛び交うほどだったと聞き、ものすごく大変な仕事だと改めて感じました。これほど懸命に記者によって作られた新聞を、しっかり読むように習慣づけていこうと思います。

最近スマホが普及する中、新聞をとっている家が、津名高だとざっと半分くらいで、思っていたよりも多かったのが驚きでした。新聞は取っているけれど、あまり読んだことがなかったので、これからは読んでみようと思いました。

真夜中に何か起こると、深夜の締め切り時間までに記事を提出しないといけないことや、夜討ち朝駆けで住人から怪しいと思われたり、警察から職務質問されたりと、大変な面がたくさんあると思いました。特ダネなどでは、新聞社どうしの競争が厳しいけれど、やりがいもあるのだろうと感じました。

記者の方々が、無駄とも思えるような努力を何度もくりかえし、内面的にも外面的にも大変な思いをしながら完成させてくださった新聞を、しっかり読んでいきたいです。